

令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号：34434

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00433

研究課題名(和文) エコクリティシズムの観点から見た日英近代図像における擬人化表象の諸相と東西交流

研究課題名(英文) Eco-Criticism and Intercultural Encounters: Anthropomorphic Representation in Modern British and Japanese Iconography

研究代表者

千森 幹子 (Chimori, Mikiko)

大阪観光大学・観光学部・客員教授

研究者番号：20236821

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、エコクリティシズムから、1850～1940年代に至る日英(欧)文学図像における擬人化表象を、文化・美術・社会・子ども観等から考察する学際比較研究である。2015～2017年度基盤研究(C)を受けた研究課題の継承発展を目的とする。本研究では、植物や無生物が、日欧英の子どもの挿絵で、どのように擬人化され、変遷したのか、そこに埋め込まれたエコロジーに対する文化的意味を、日英の擬人化の歴史、人間と自然の対立融合共生の変遷、日英(欧)における自然観の相違を、比較検証証明することを、目的とする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的な特色は、研究対象を英日版文学図像に広げ、19世紀半～20世紀初め、植物や物質などの自然が、いかに人間的要素を付加され表象されたのか、人間と自然の対立共生融合の系譜を、エコクリティシズムから探り、人間と非人間を峻別することなく擬人化する傾向のある子どもの挿絵に埋め込まれた日英の社会文化的意味を探る比較研究にある。

研究代表者の比較表象研究に対する国内外の引用数が275件(Google Scholar)に及ぶこと等から、日本の文化美術思想に対する、国内外の注目が期待でき、いまだ十分に確立されていない図像に関わる比較視覚表象研究を飛躍させる、社会的関心も高い研究課題である。

研究成果の概要(英文)：This intercultural project deals with anthropomorphic iconography in British and Japanese illustrated books from the 1850s to the 1940s. Employing an eco-critical matrix of interpretation, it explores - from social, cultural, aesthetic and children's perspectives - anthropomorphic images relating to the natural world. It is to succeed and develop the former project that received Grant-in-Aid for Scientific Research (C), 2015-2017. Special attention is paid to the procedures whereby personified images are constructed and transformed in both British and Japanese texts and illustrations. The cultural meanings concealed in personified images, as they relate to ecological questions, are investigated principally from three points of view: the history of the techniques of personification; the processes of confrontation, fusion and symbiosis in the co-habitation of the human and the natural; and the differences in attitudes to nature more generally, to be found in Britain and Japan.

研究分野：比較文化、視覚表象研究、18・19世紀英文学、翻訳研究

キーワード：日英比較研究 視覚表象 カルチュラルスタディーズ 擬人化 エコロジー 環境批評 図像

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけを、次のように判断し、当該研究の学術的な特徴・独創性を確認し、研究申請と研究を行った。

文学作品とその図像研究は、近年、注目されはじめている。しかし、エコクリティシズムに立脚した、擬人化表象(以下、すべて動物表象を除く)に関わる、1910~1945年の日本版子どもの挿絵研究、および、1850~1945年英版子どもの挿絵研究と、その日英比較挿絵研究は、研究代表者の知る限り、代表者の研究以外見つけられない。

(1) エコクリティシズム的観点からの文学作品と図像に関わる研究:

先行研究としては、エコクリティシズム観点からの英版文学作品の挿絵研究は、極めて少ない。環境批評に立脚したアメリカ版挿絵研究としては、Megan Matsuda・Michelle Christodoulouの“Clara Judson's Flower Fairies: An Eco-Critical Analysis”(Web論文)がある。この論文はアメリカで1915年に出版されたJudsonの挿絵本を扱い、花の妖精と20世紀初期のアメリカのエコクリティシズムとの関連を問う論文である。

一方、本研究は、時代を1850~1945年代に、研究領域を、英欧(米)版文学作品図像へと、広げるものである。19世紀半ばから20世紀半ばの特性を解明し、さらに、日本の翻訳・挿絵本における、テキストと挿絵表象を、エコクリティシズム・日英比較から論じる点、他に例がない。

(2) 英欧図像における anthropomorphic 表象(動物表象は除外): 先行研究としては上記の“Clara Judson's Flower Fairies: An Eco-Critical Analysis”があるが、同論文は擬人化表象のうち花の擬人化のみを対象にしている。

(3) エコクリティシズムからの映像・絵本研究:

先行研究としては、Geraldine Massy と Clare Bradford の論文“Children as Ecocitizens”(Contemporary Children's Literature and Film 2011)があるが、扱う領域は「もののけ姫」などの、現在の映像絵本作品に限定されている。

(4) 環境批評から英国児童文学作品を論じる研究:

Suzan Rowland の *The Ecocritical Psyche*(2012)や、Anthony Pavlik の論文“Children's Literature and the Ecocriticism”(2011)などがあるが、挿絵本を論じる研究はない。

(5) 英文学作品の擬人化(動物以外)表象: エコロジーから論じる研究としては、L. Moore の *Ecology and Literature* 一冊のみが存在するが、同書は、本研究がめざしている挿絵とエコロジーの関係については言及していない。

(6) 日本版文学挿絵における擬人化表象とエコロジーの関係を扱った研究、および、日英挿絵における擬人化表象を扱う比較研究は、拙論「日欧図像に見る花の擬人化表象 1847-1934」(2016)と、申請者の先の研究課題と本研究課題の他には、見られない。

(7) 日英子ども本の図像における擬人化表象研究:

1850~1930年代出版の子どもの挿絵における植物やモノの擬人化にかかわる日英比較研究は、拙論「日欧図像に見る花の擬人化表象 1847-1934」(2016)以外、皆無である。

以上、文学作品とその図像研究は、近年、注目されはじめているが、エコクリティシズムに立脚した、擬人化表象に関わる、1910~1945年の日本版子どもの挿絵研究、および、1850~1945年英版子どもの挿絵研究と、その日英比較挿絵研究は、本研究以外皆無である。

(8) 国内・国際的な評価:

本研究が研究手法を継承発展した研究代表者による先行研究:

A. 海外業績

・ Mikiko Chimori, “Sense in Nonsense: The *Alice* Books and Their Japanese Translators and Illustrators”(イースト・アングリア大学、博士論文、2003)

・ Mikiko Chimori, ‘Tove Jansson’s *Alice* Illustrations’

Tove Jansson Rediscovered, (2007: Cambridge Scholars Publishing)146-165.

・ Mikiko Chimori, ‘Alice in Japan’ *Illustrating Alice: An International Selection of Illustrated Editions of Lewis Carroll’s Alice’s Adventures in Wonderland and Through the Looking Glass* (2013, Artists’ Choice Editions) 60-67.

B. 国際学会での発表:

・ Mikiko Chimori, ‘Gulliver in the Orient,’ Clare Hall Colloquium, 24 March 2015,

Clare Hall, University of Cambridge (Cambridge, UK)

C. 国内業績

- ・千森幹子、『ガリヴァーとオリエント 日英図像と作品にみる東方幻想』法政大学出版局、1-424. 2018年
- ・千森幹子、『表象のアリス テキストと図像に見る日本とイギリス』法政大学出版局、1-438. 2015年
- ・科学研究費補助金（基盤研究C）の交付を受けた以下の4つの研究における文学作品と図像・時代思潮と図像に関わる比較研究手法の継承発展：
 - (a)「ポストコロニアル的観点から考察した日英『ガリヴァー旅行記』図像にみる少年性」(2005-2008年度)
 - (b)「ポストコロニアル的観点から考察した日英文学図像にみるオリエント表象の分化と変容」(2009-2011)
 - (c)「19-20世紀英版文学図像のオリエント表象にみる東西交差の系譜とポスト植民地主義」(2012-2014)
 - (d)「近代日英図像に見る anthropomorphic 表象の変遷とエコクリティシズム」(2015-2017)

ケンブリッジ大学の John Harvey 博士、イースト・アングリア大学の元指導教授 Clive Scott 教授から、研究の独創性を評価され、今回の共同研究の内諾をえる。

2. 研究の目的

本研究は、研究代表者が基盤研究を受けた「近代日英図像に見る anthropomorphic 表象の変遷とエコクリティシズム」を継承発展。先の研究では、1850～1930年代に至る英文学図像を中心に、その擬人化表象、特に、植物や物など人間以外の存在に、人間的な感覚や感情・意味を読み取り、生命を付与する表象を、調査研究した。一方、今回の研究は、1910～40年代に至る日本版挿絵本と児童雑誌における擬人化表象に重点をおき、先の英版図像を補足し、さらに欧版図像も視野に入れ、日英の文学・美術・社会・子ども観等から考察する、学際研究であり、先の研究課題をさらに日本版図像の観点から、日英比較・東西文化交流研究へと展開するものである。植物や物が、日英の子どもの挿絵と作品で、どのように擬人化されたのか、そこに込められたエコロジーに対する文化的意味を、日英の擬人化の歴史、技法、日英文化交流、当時の科学思想的背景から考察し、西洋的価値体系における自然観と日本の自然観の位相、人間と自然の対立融合共生の諸相を、比較検証解明することを、目的とする。

具体的な目的は、次の8点である。

- (1) 擬人化表象を有する、日本版挿絵本と童画家（初山滋、武井武雄、岡本帰一等）の作品の研究調査・デジタル資料作成。
- (2) 同表象を有する、英（欧米）版挿絵本と挿絵画家（Goble, Crane等）の作品のうち、既往研究で未調査の作品の研究調査・デジタル資料作成、資料の一般公開。
- (3) 日英版挿絵における擬人化表象を、文学史の中から俯瞰し、時代的特性を読み解く。
- (4) 西欧と日本における、自然観、人間と自然との対立共生の諸相を、特定解明。
- (5) 日英挿絵の中で、エコロジーに対する文化的意味が、どのように埋め込まれているのかを、創作過程、擬人化の歴史、技法から、探る。
- (6) 日英（欧米）挿絵比較を通じ、同表象における東西美術交流の過程・影響を、エコロジー及び視覚表象研究的観点から、分析。
- (7) 海外研究協力者との共同研究
 - John Harvey 博士（ケンブリッジ大学）英文学と視覚表象の分析
 - Clive Scott 教授（イースト・アングリア大学）英米欧文学と視覚芸術の分析と比較研究
- (8) 成果発表

3. 研究の方法

(1) 先ず、研究の第一歩である、英米欧文学挿絵に関わる資料研究・調査・収集、文字および画像テキスト複写とデジタル化、インデックス化

収集方法：

- 購入：図像資料は、色調手触り等を検証するためできる限り購入。
- 資料所蔵図書館での調査／複写

英国：Cambridge University Library(Cambridge)など

北欧諸国：アテネウム美術館・ヘルシンキ大学図書館など

国内：函館中央図書館、国会図書館、神奈川近代文学館、都立多摩図書館など

(2) 海外共同研究者との共同研究：

調査収集したデータをもとに、研究協力者と共同研究を行い、本研究に広範重層的視点を提供。

- ケンブリッジ大学 John Harvey 教授（19～20世紀英文学と図像研究の第一人者）同博士の英文学と挿絵全般に関する学際的見識は、19・20世紀英版文学とその図像を、多領域から扱う本研究に、新たな視点を提供

- イースト・アングリア大学 Scott 教授（映像研究、ヨーロッパ文学、比較文学）英国版文学図像に、ヨーロッパ的広義な視点と映像芸術という重層的な視点を提供。

（3）研究資料の整理分析：

収集した画像・文字資料の整理分析（なお、以下の資料は、今回と先の研究課題（2015-2017）を総合）

欧米版画像・文字資料：

- フランス版：
ヴァラン、グランヴィルなど擬人化表象と関連する画家による挿絵本
- 英米国版：
クルックシャンク、リア、テニエル、クレイン、グリナウェイ、コルデコット、ドイル、C.ロビンソン、ニールセン、ラッカム、M.W.エンライト、ゴープル、キング、F.ハリソン、デュラック、H.クラーク、W.H.ロビンソン、アトウェル、『マザーグース』
- 北欧版
ベスコフ 他
- スイス版
クライドルフ
など擬人化表象と関連する画家による挿絵本

日本版画像・文字資料：

- 児童雑誌
『コドモノクニ』（函館中央図書館、国会図書館、都立図書館、神奈川近代文学館等、以下同）
『おとぎの世界』『金の船』『赤い鳥』：花の擬人化表象調査のみ
- 挿絵本：『児童標準絵本』や武井武雄の原画（イルフ童画館）など

4. 研究成果

（1）資料収集・整理・デジタル化

フランス版関連画像の収集・整理（1829～1890年）：

ヴァラン（4種類）、グランヴィル（5種類）、モンペール（5種類）合計14種。（デジタル資料化）

英国版関連画像の収集・整理

（1840年代～1920年挿絵本）：

クルックシャンク（33種類）、リア（10種類）、テニエル（15種類）、グリナウェイ（39種類）、ドイル（30種類）、コルデコット（47種類）、クレイン（36種類）、ゴープル（15種類）、ニールセン（5種類）、C.ロビンソン（46種類）、アーサー・ラッカム（84種類）、デュラック（22種類）、キング（17種類）、F.ハリソン（13種類）、クラーク（7種類）、W.H.ロビンソン（28種類）、アトウェル（28種類）、『マザーグース』（6種類）合計481種。（複写・接写した資料のうち、ほとんどをデジタル資料に変換）

アメリカ版関連画像の収集・整理（1906～1920年）：

M.W.エンライト（9種類）

北欧版関連画像の収集・整理（1897年～1919年挿絵本）：

エルサ・ベスコフ（20種類）他。（ほとんどをデジタル資料に変換）

* なお、上記資料のインデックス化は今後の課題

日本版関連画像の収集・整理・デジタル化

- 『おとぎの世界』全巻における花の擬人化表象資料収集。
- 『金の船・金の星』全巻における花の擬人化表象資料収集。
- 『赤い鳥』全巻における花の擬人化表象資料収集。
- 『コドモノクニ』（242冊）
- 『児童標準絵本』18冊中6冊

大阪中央図書館国際児童文学館、国会図書館、国会子ども図書館、日本近代文学館、函館市立図書館、神奈川近代文学館、岡谷イルフ童画館での調査。植物・モノの擬

人化表象関連の図像の複写および接写。デジタル化は30～50パーセント程度。
*なお、整理・分類・デジタル化・インデックス化の完成は今後の課題。

(2) 仏英欧版関連画像の調査収集整理した524種の挿絵本(1829～1920年)における擬人化表象(動物・植物・モノ)のデータ収集解析。

具体的には、出版地域 調査した画家と擬人化挿絵本数の特定。

なお、擬人化表象の対象や、その特徴については、分類・解析途上である。

出版地域：総計524種類
フランス：14種類
イギリス：481種類
アメリカ：9種類
北欧：20種類

画家名と擬人化の種類数 / 調査挿絵本
(調査総計：擬人化表象194種類 / 524種類中)
フランス(総数：10種類 / 14種類中)
ヴァラン(4種類 / 4種類中)
グランヴィル(5種類 / 5種類中)
モンペール(1種類 / 5種類中)
英国(総数：168 / 481種類中)
クルックシャンク(13 / 33種類)
E.リア(8 / 10種類)
J.テニエル(5 / 15種類)
グリナウェイ(5 / 39種類)
ドイル(5 / 30種類)
コルデコット(8 / 47種類)
クレイン(17 / 36種類)
ゴープル(1 / 15種類)
カイ・ニールセン(2 / 5種類)
C.ロビンソン(22 / 46種類)
アーサー・ラッカム(31 / 84種類)
デュラック(11 / 22種類)
J.キング(3 / 17種類)
F.ハリソン(6 / 13種類)
H.クラーク(2 / 7種類)
W.H.ロビンソン(11 / 28種類)
M.アトウェル(14 / 28種類)
『マザーグース』(4 / 6種類)
アメリカ(総数：4種類 / 9種類)
エンライト(4種類 / 9種類中)
北欧(総数：12 / 20種類)
ベスコフ(12 / 20種類中)

(3) 日本版児童雑誌と書物における擬人化表象(動物・植物・モノ)のデータ収集と調査。
なお、画家名、時代、その擬人化の対象や特徴に関しては、整理途中である。

『おとぎの世界』8種類：(花の擬人化表象のみ)
『金の船・金の星』8種類：(花の擬人化表象のみ)
『コドモノクニ』253冊：『児童標準絵本』18冊中6冊 18冊中6冊

以上、上記の研究成果は、まだ調査集約途上、未発表の段階であるが、英版の擬人化表象および日版擬人化表象の対象や特性等とその日英比較研究的考察は、後日、著書としてまとめる予定。
なお、その成果の一部は、拙著『ガリヴァーとオリエント』(法政大学出版局2018)で、発表。

(4) 英版文学作品図像における表象研究

現在、上記で収集調査分類した英版文学作品図像における表象を調査し、いくつかの作品や画家に的をしぼり、収集調査研究中である。さらに、その研究は、研究代表者が、科学研究費補助金(2021～2023年、基盤研究C)を受けた次の研究、「環境批評から考察した19-20世紀日英文学図像にみる擬人化表象と東西交差の系譜」課題番号：21K00356)に、継続発展される予定。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 千森幹子	4. 巻 2020年7月号
2. 論文標題 武井武雄の『ガリヴァー旅行記』画像（1）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千森幹子	4. 巻 2020年8月号
2. 論文標題 武井武雄の『ガリヴァー旅行記』画像（2）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千森幹子	4. 巻 2020年9月号
2. 論文標題 武井武雄の『ガリヴァー旅行記』画像（3）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 14-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千森幹子	4. 巻 2018年6月号
2. 論文標題 ガリヴァーとオリエント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 3 - 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千森幹子	4. 巻 2018年11月号
2. 論文標題 挿絵画家初山滋との出会い	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 4 - 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 千森幹子
2. 発表標題 『赤い鳥』の『ガリヴァー』図像
3. 学会等名 日本児童文学学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 江藤秀一・安藤聡・千森幹子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 -
3. 書名 (仮題) 教養人のための英語読本	

1. 著者名 千森 幹子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 424
3. 書名 ガリヴァーとオリエント	

1. 著者名 赤い鳥事典編集委員会（出雲俊江・小川俊輔・木本一成裕美・重野裕美・溝淵園子・武藤清吾・本岡亜沙子・山田実樹・千森幹子他）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 柏書房	5. 総ページ数 664
3. 書名 赤い鳥事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	スコット クライブ (Scott Clive)		
研究協力者	ハーヴィー ジョン (Harvey John)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
英国	University of East Anglia	University of Cambridge	